

	(特集)	
英	語	の
	語	彙

教科書語彙と大学入試



金谷 憲

■大学入試があるから？

高校の英語教師にとって、確かに大学入試が目の前にぶらさがっていて、自由に教科指導に取り組みにくい雰囲気である。

しかし、「大学入試，大学入試」と騒ぐ割には、具体的な入試研究（？）は十分には行われていない。学校の授業でどこまでやれば，大学入試に対しての準備をしてあげたことになるのか，を実証的に見たデータはあるのだろうか。

私と仲間が大修館より最近出版した本、『教科書だけで大学入試は突破できる』は，データを元に，高校の通常の授業で，どのくらい大学入試に対応できるかを示そうとしたものである。

大学入試への対応で，教師も生徒も最も心配するのが語彙のことである。「知らない単語が入試に出たらどうしようか」など，もっともな心配と言えば言える。

そこで，とにかく多めに語彙を与えなければならないという思いに駆られて，単語集などを学校で採択し，教科書を使った授業とは別に出题範囲を決めた小テストなどを行い，入試対策をしている高校はかなりの数にのぼる。

■教科書語彙でどこまでできる？

しかし，闇雲に単語集に奔るまえに，語彙について，大学入試に対応するには少なくとも次の3つのことを具体的に考える必要がある。

①教科書の語彙では入試はどのくらいカバー出来るのか。

②教科書の語彙は生徒にどのくらい定着しているのか。

③教科書以外の教材（例えば，単語集）での語彙学習ではどのくらいの語彙が定着しているのか。

上述の近刊はこのうち①に具体的なデータを提供しようとしたものである。

ある教科書を使って指導して，その教科書に載っている語彙の全てが身につけているとして，入試問題を実際に解いてみて，どのくらいできるかを実験してみたものである。

実験に用いた教科書は次の通りである。

Departure Oral Communication I Revised

Genius English Course I Revised

Genius English Course II Revised

Genius English Readings Revised

Genius English Writing Revised

このような教科書を使って，英語Ⅰ，英語Ⅱ，OC，リーディング，ライティングを学校で教えたと仮定したわけである。

この5冊に加えて，7種類の中学教科書に載っている語彙を加えて解答実験を行った。

センター試験を含み，国立大（東大，京大など），私立大（早大，慶大など，複数学部に及ぶ），24の大学学部について2007年度の入試問題中，長文読解問題を調べてみた。

まず，入試問題の語彙と，教科書語彙の重なり具合（カバー率と呼んでいる）を出した。その後，教科書語彙にない単語が入試問題にあった

場合、それを黒く塗りつぶして、そのまま問題が解けるかどうか実際にやってみたわけである。

黒塗りの単語があったとしても、それで即解けないというわけではない。設問に関係のないところに未知語があっても、問題には答えられることがあるからである。

結果は以下ようになった。

○教科書のカバー率は概ね95%

○調査した大学、学部など24の75%にあたる18で解答可能率が70%を越え、東京大学を含む、15大学学部で80%を越えた。

解答可能率については、立教大学（文）、駒澤大学（文・法・仏・教・医療健康）が100%、東大99.5%となって、教科書語彙でほとんど満点がとれることがわかった。ただし、慶大（理工）の44.5%、京大55.5%、早大（教育）57.0%など、解答可能率がかなり低い大学もあった。

この結果から、教科書語彙は入試にとってかなり有効なものであることがわかる。各教科70点もとれば、通常まず合格だろう。調べた大学学部の多くで解答可能率が7割を越えていることから、教科書語彙の有効性が理解できるだろう。もちろん、解答可能率の低い大学学部もあるが、それでも合格ラインまでもう一步というところである。

教科書以外の単語集などに行く前にまず、教科書のマスターを目指すのが、入試対策として、少なくとも語彙の面からは、大切であると言える。

■定着がポイント

ただし、ポイントは「定着」である。教科書語彙がかなりの有効性をもっているとしても、それが身につけていなければ何にもならない。このことは単語集についても言えることである。

どのくらい定着しているかは、先に挙げた3つのポイントの②（あるいは③も）を検証してみなければならない。高校では教科書語彙がどのくら

い生徒の頭に入っているか、確認しているだろうか。もし、定着率が良ければ、その先、語彙を更に増やすために単語集など買い求めさせることもよからう。しかし、定着率が低ければまず、教科書語彙の定着率の向上を図るのが第1だろう。

■定着への工夫

教科書語彙を定着させるためには、繰り返して教科書を復習させる工夫をすることが、入試対策として役に立つ。教科書は一度「読んだら」、もうそれで終わり、という指導ではいけない。「一度読んだ」と言っても、教科書の内容がぼんやりと日本語で入っている程度という場合が多いのではないだろうか。語彙が身につくには、教科書本文の英語が頭に入っている必要がある。繰り返して教科書を読む指導が必要である。

しかし、単純な繰り返しでは生徒については来ない。違う角度から読んだり、読んだ内容を英語でまとめたり、内容についてのコメントを英語で書かせるなど、いろいろな工夫をしてはじめて、英語が頭に残ってくるものだろう。

■文法指導にも入試研究が必要

今回は、語彙を中心として述べてきたが、文法事項についても同じ、あるいはそれ以上のことが言えることがわかった。高校では、大学入試の出題率の多いものに焦点をあてているかどうかは定かではない。実は、ほとんど入試には出題されていない事項にもかなりの時間を費やしていることがあり得る。高校で十分に能率のよい入試対策をしているかどうかはかなり怪しい。

■結び

気持ちの上だけで「入試があるから、入試があるから」と焦るのではなく、現実を十分押さえてそれに対する対策をしてゆくことが今後何より望まれることである。

（かなたに けん・東京学芸大学教授）